

2014年5月13日

創業 90 周年記念 社会貢献事業
『“空気をはぐくむ森” プロジェクト』をスタート

ダイキン工業株式会社は、創業 90 周年を記念した社会貢献事業として、国際 NGO「コンサベーション・インターナショナル（以下、CI）」及び公益財団法人知床財団（以下知床財団）と連携し、従来の森林再生・保全活動を拡大した『“空気をはぐくむ森” プロジェクト』をスタートします。当社は、2008 年から CI とインドネシアで、2011 年から知床財団と知床半島で、森林再生・保全を行ってきました。90 周年を機に、これまでの実績を活かし、活動を世界に広げます。

このプロジェクトは、世界最大級の原生林をはじめとした 7 箇所※1の地域で、地球の空気をはぐくむ森を守り育て、未来につなげていくことを目的とします。CI が重要地とする「生物多様性ホットスポット」※2等を参考に、世界有数の自然でありながら危機に瀕しており、当社の事業とも関係性の深い 7 箇所を支援先として選びました。世界各国や日本での活動実績やノウハウを持つ NGO と協力し、その地域がおかれる状況に適した支援を行います。

当社は従来より、事業の成長と地球環境問題への貢献の両立を目指し、CO₂ 排出低減に積極的に取り組んできました。今後ますます、気候変動による自然災害や食糧問題の危機的状況が拡大し、人類への多大な影響が予測される中、気候変動の要因である CO₂ の排出削減のために、事業活動においてインバータ技術※3 や新冷媒 HFC (R) 32 冷媒※4 の普及等を進めています。

一方、多くの途上国の CO₂ 排出量の大部分は、森林の消失によって森林に蓄えられた CO₂ が大気中に排出されることに起因します。今回のプロジェクトでは、森林の消失を食い止め、残された貴重な原生林を守り育てることで、CO₂ の排出を減らし、気候変動の緩和に繋げるよう取り組みます。世界 7 箇所約 1,100 万ヘクタールの森林を保全し、700 万トン以上の CO₂ 排出削減※5 に貢献します。

森林を持続的に保全するためには、森と共に生きる地元住民の環境知識の向上や、生活基盤の確立など、統合的な支援が不可欠です。今回のプロジェクトでは、単なる植林だけでなく、森林の破壊を伴う活動に代わる収入源としての持続可能な農業支援、現地コミュニティに対する環境教育、違法伐採・密猟の取り締まり、そしてそのための合意形成やトレーニングなどを実施します。地元住民が主体となって、森林を守っていくことを目指した支援です。当社 100 周年に向け、「温暖化を緩和する森」「きれいな空気をはぐくむ森」を地元住民とともに持続可能な方法で保全し、事業と社会貢献の両輪から、世界規模で地球環境に貢献していきます。

※1 CI への支援 6 箇所、知床財団への支援 1 箇所、計 7 箇所

※2 「生物多様性ホットスポット」

地球上で生物多様性が特に豊かでありながら、もっとも高い危機に瀕している地域。世界 35 箇所に指定されている。ホットスポットの多くは途上国にある。

※3 負荷に応じて空調能力を連続的に変化させ、快適性と省エネ性を両立できる技術。

※4 従来の冷媒 (R410A) に比べ温暖化係数が約 1/3 かつエネルギー効率にも優れた環境負荷の小さい冷媒。

※5 本プロジェクトが保全に貢献する地域全体の 2024 年までの 10 年間の排出削減見込み量。

《プロジェクト概要》

【名称】“空気をはぐくむ森”プロジェクト

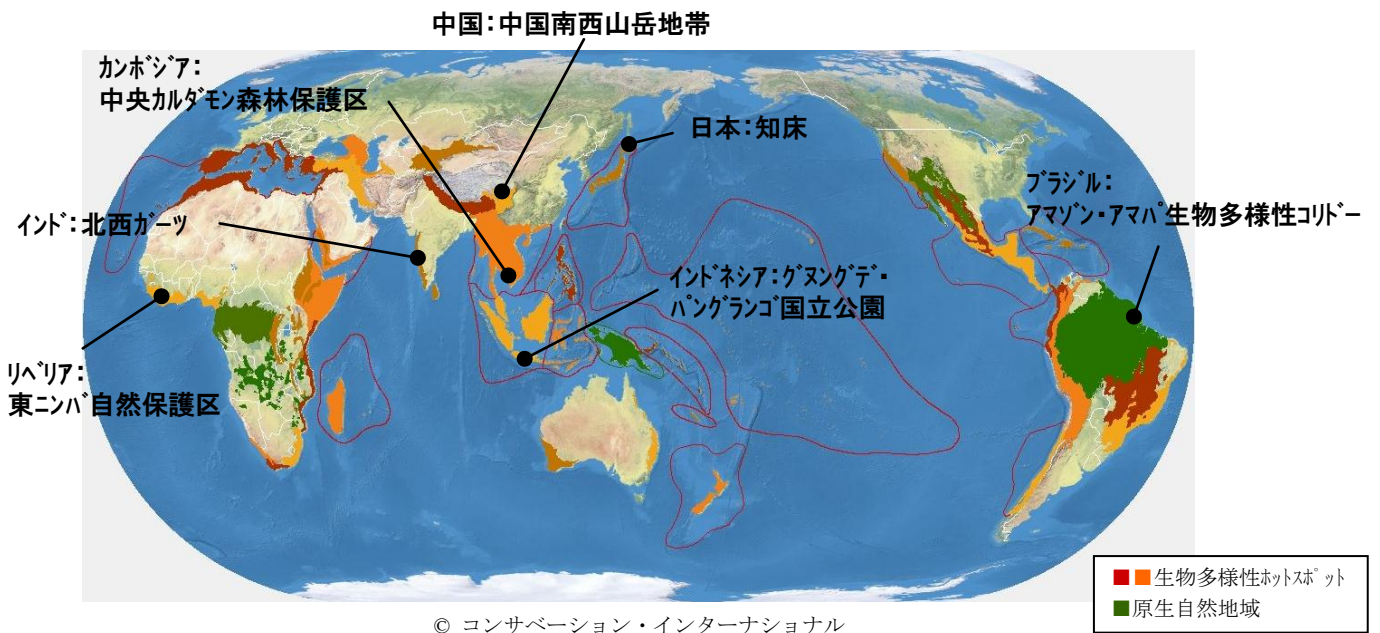
【期間】2014年6月から2024年5月までの10年間

【地域】ブラジル（アマゾン・アマパ生物多様性コリドー）、リベリア（東ニンバ自然保護区）、中国（中国南西山岳地帯）、インド（北西ガーツ）、カンボジア（中央カルダモン森林保護区）
インドネシア（グヌングデ・パングランゴ国立公園）、日本（知床）

【支援額】約5億円

《参考資料》

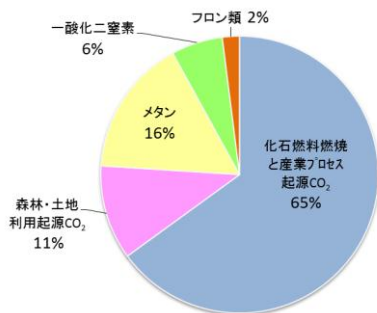
■支援場所7箇所について



■気候変動をめぐる最近の動向

- ・気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書 第3作業部会報告書では、世界の人為起源の温室効果ガス総排出量に占めるガス別排出量の内訳（CO₂換算ベース）において、約1割が森林の消失によるものとされています。

《ガス別排出量の内訳(2010年)》



(出典：IPCC 第5次評価報告書 第3作業部会報告書)

- ・国連気候変動枠組条約では、途上国の森林を守るための措置である「途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減等（REDD+）」を2015年以降の枠組みに組み込むことを視野に、交渉が進められています。

■当社のこれまでの森林再生保全支援活動

・インドネシア森林再生プロジェクト（CI と協力：2008 年～）

グヌングデ・パングランゴ国立公園を囲む境界地域において、荒廃地を再植林により回復し、水源地和貴重な動植物の生育地を守る「グリーン・ウォール」を形成するプロジェクトです。現在では 300 ヘクタールの土地に約 12 万本の自生種が植えられ、また樹木や農作物の植栽や環境教育を含む包括的な取り組みも実施しています。

○コンサベーション・インターナショナル（CI）…1987 年設立の国際 NGO。世界 30 ヶ国、約 800 名のスタッフを擁し、世界の 1,000 以上のパートナーと協働しています。発展途上国を中心に次世代に豊かな自然を引き継いでいく持続可能な社会の形成に取り組んでいます。

◇日本語サイト:<http://www.conservation.or.jp/> ◇グローバル・サイト:<http://www.conservation.org>

・知床自然環境保全事業への支援（知床財団と協力：2011 年～）

世界自然遺産でもある知床半島の自然環境保全作業を支援。荒廃した湖畔林の復元や、河川環境の改善を行っています。湖畔林と河川環境を再生することで、川、海、山の循環が織り成す豊かな生態系を守る取り組みを支援しています。

○公益財団法人知床財団…1988 年に設立されて以来 20 年以上にわたって環境教育や普及啓発、野生生物の保護管理・調査研究、森づくりなどを行ってきた公益財団法人。年間総事業費は 2 億 5 千万円にのぼり、環境省や斜里町・羅臼町、林野庁や北海道から多くの受託事業を手がけています。

◇日本語サイト:<http://www.shiretoko.or.jp/>

〔お問合せ先〕ダイキン工業株式会社 コーポレートコミュニケーション室

大阪 (06) 6373-4348 / 東京 (03) 6716-0112